

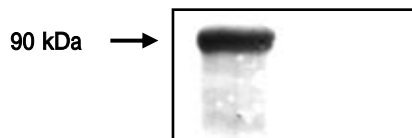
## 抗ヒト Mucosa Associated Lymphoid Tissue ポリクローナル抗体

粘膜関連リンパ組織 (Mucosa Associated Lymphoid Tissue = MALT) に由来する MALT リンパ腫は、消化管や気管支など種々の臓器に発生します。近年、MALT1 遺伝子は Apoptosis Inhibitor protein 2 (API2) 遺伝子との融合遺伝子を形成することにより、MALT リンパ腫の原因となっていることが示唆されています。

また、MALT1 はリンパ球系細胞において、I B kinase (IKK) を活性化することが明らかとなりました。IKK は上皮細胞分化の制御機構に関与していますが、上皮細胞における活性化メカニズムは未だ不明な点が多く残されています。

本抗体は、MALT リンパ腫の研究や上皮細胞における MALT1-IKK システムの解明に有用であると期待されます。

容量	25 $\mu$ g (100 $\mu$ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2% ブロックエース (安定化蛋白)、0.1% proclin 含有]
保管方法	- 20 以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4 で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	ヒト MALT1 の部分ペプチドを免疫して得られたウサギの抗血清より、ペプチドアフィニティーカラムにて精製。
使用濃度	ウェスタンブロットティング: 0.5 ~ 2 $\mu$ g/mL



ウェスタンブロットティング

Sample:

大腸菌発現 ヒト MALT1 (IPTG+)  
(IPTG-)

提供:

日本歯科大学 歯学部 生化学教室  
今井 一志 先生  
千葉 忠成 先生

## 抗ヒト Mucosa Associated Lymphoid Tissue ポリクローナル抗体

### 【参考文献】

1. Kaufman CK. et al. : J Cell Biol. 2000 May;149(5):999-1004
2. Willis TG. et al. : Cell 1999 Jan 8;96(1):35-45
3. Lucas PC. et al. : J Biol Chem. 2001 Jun 1;276(22):19012-9
4. Li Q. et al. : Genes Dev. 1999 May 15;13(10):1322-8
5. Seitz CS. et al. : Proc Natl Acad Sci USA. 1998 Mar 3;95(5):2307-12
6. Zandi E. et al. : Cell 1997 Oct 17;91(2):243-52

製造元

 株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp